



# 防コミの歩き方



## 震災復興集合住宅3,200世帯、7,800人の住民を災害から守るために ～なぎさ防災福祉コミュニティ～

HAT神戸なぎさの街（摩耶海岸通1丁目、2丁目）は震災後、神戸製鋼の工場跡地に新たな都市構想のもと開発されました。地縁も血縁もない人々がUR、県住、市住、分譲住宅に移り住み、新生活を開始して二十数年になります。

街が開設された当初は、見知らぬ住民同士を結び付けるさまざまなイベントが企画されました。手厚い行政支援とボランティアの活動により、街全体も新興副都心としての熱い熱気に満ち溢れていました。各自治会、老人クラブ、婦人会、なぎさまちづくり協議会も活発に活動を開始し、自分たちの街を自分たちで創りあげる住民自治の精神も住民間で共有されていました。しかし20年以上たった現在の状況は、地域を引っ張っていた初代リーダーたちのほとんどが引退し、街の高齢化と住民の孤立化の中で、防災福祉コミュニティの活動も新たな局面を迎えています。

各自治会、マンション管理組合単位での防災訓練はおこなわれていますが、公助がほとんど期待できない南海トラフのような大震災の対応では、これらの地域組織が連携して防災活動に取り組む必要があります。街全体のリスクコミュニケーションを高め、地域が連携して住民の命を守るためにはどのような組織づくりが必要か、また平時の防災福祉コミュニティ活動はどうあるべきか、防災福祉コミュニティの委員と地域組織の各リーダーとが議論を重ねてきました。幸い、私たちの街では、日本の防災研究を

リードする「人と防災未来センター」、緊急医療の専門医療機関として「日赤病院」・「兵庫県災害医療センター」があります。また地域で育てた防災士が、地域リーダーとして育ちつつあります。

これらの専門機関と防災リーダーが連携して地域全体の防災力を高めるために昨年からはHAT地域全住民参加型のオールHAT防災訓練を実施しています。

### ■住民のための住民による防災訓練

「人と防災未来センター」の企画により初めてHAT全体の防災訓練を実施。まちづくり協議会と各地防災組織が連携し、一丸となって防災訓練に参加し、なぎさ名物の豚汁も大好評でした。



同センターの指導によりこの訓練では全住民が、決められた地震発生時間に一齐にシェイクアウト訓練を実施し、訓練実施後には同センターに集合し、さまざまな防災イベントに参加します。今後とも自分たちの街は自分たちで守るという自助、共助、近助の地域文化がオールHAT防災活動によりさらに地域に深く根付くことを願って、避難消防署との連携も深め、防災福祉コミュニティ活動をさらに充実させてまいります。

（なぎさ防コミ 委員長 門協龍三）